

学校教育目標	「自分大好き 友だち大好き 共に学ぶ子 実践する子」 ○自分の考えをしっかりとち、積極的に表現しながら、主体的に学習する子を育てます。(知) ○人に対して優しく思いやりをもって行動し、人の心の痛みのわかる子を育てます。(徳) ○基本的な生活習慣を身につけ、健康の保持増進を図ると共に、命あるものを大切にしようとする子を育てます。(体) ○地域の環境や人を大切に、進んで人のためになる行動の取れる子を育てます。(公) ○いろいろな人とのコミュニケーションを大切に、よりよい生活について考える子を育てます。(開)				
	創立 26 周年	学校長 喜納 瑞枝	副校長 大滝 文平	2 学期制	一般学級: 19 個別支援学級: 8
学校概要	児童生徒数: 636 人 主な関係校: 中山中学校・中山小学校・上山小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中山中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
主体的に課題解決する力  コミュニケーション力	中山中学校 中山小学校 上山小学校	豊かなかかわりを通して、主体的に課題解決をする子ども  ・地区懇談会や子ども会議、その他交流を通して、「児童生徒が「まち」や周囲の人たちとかかわりながら、自分の課題について考えられるようにする。 ・小中合同授業研究会では、「主体的に課題を解決する力の育成」「ICTの活用」をテーマに協議会を行う。

中期取組目標	○子ども一人ひとりに向き合い、「ひと」や「まち」との関わりを大切に、活力と魅力あふれる学校づくりを進めます。 ・子ども同士の関わり合いと認め合いを育み、新学習指導要領に沿った学習活動を展開します。 ・特別支援教育の視点を大切に、問題解決学習型の授業づくりに取組み、進んで問題を解決していく子どもを育てます。 ・家庭・地域・関係機関との連携をより一層強め、子どもの心に自尊感情・自己有用感を高めるように取り組んでいきます。 ・楽しみながら学び、健康・体力の向上に寄与する学習の充実を図ります。 ・全教職員が互いに学びあい、啓発し合って自らの力を磨いていく学校づくりを進めます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①チーム学年経営の仕組みを生かし、児童理解と教材研究の両面を充実する。身に付けたい資質・能力を育むために、単元構成の工夫をして問題意識をもったり、体験を大切に学習の工夫をしたりする。 ②生活科・総合的な学習の時間の重点研究を通して、好奇心を探究の出発点とし、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」という問題解決のサイクルを子どもたち自身が回し、学びを創造する姿を目指すようにする。
徳 人権教育	①「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指し、児童会活動を中心に挨拶やよりよい人間関係を構築する活動を行う。 ②横浜プログラムを積極的に活用しながら、児童理解や児童の実態を把握し、友達の意見を聞き入れる、発表しやすい温かい雰囲気づくりなど、人権を意識した授業づくりを行う。 ③日々の道徳授業では、自分の在り方を振り返ったり、自ら課題を立てたりすることで、自他を認める心が育つようにする。
体 健康教育	①体力向上のため、新体カテストの活用や日常の体育科学習の計画的な実践を継続する。 ②学校保健委員会では、「睡眠」に着目し、「睡眠が及ぼす心身への影響」「睡眠の質を高めるにはどうしたらよいか」をテーマに、自分の生活を振り返り、自ら意識してよい睡眠をとれるように生活の中で工夫していけるよう取り組む。
公 自分づくり	①異学年で構成する縦割り活動を意図的・計画的に行う。異学年で活動することにより、互いの年齢の違いを理解したり、様々な活動を計画から実践まで進んで行うことで、自主的、実践的な態度を育てたりする。 ②学年ごとの系統性を明確にしたキャリア発達を促進するために、自分づくりパスポートを活用しながら全教育活動を通してキャリア教育に取り組む。
いじめへの対応	①いじめ防止研修やいじめ防止対策委員会を通して、いじめの未然防止・早期発見に努め、迅速に組織的対応をしていく。(年2回のアンケート・子ども面談の実施) ②学年研・職員会議等で情報共有し、全児童を全職員で見守る意識を高める。 ③「いじめ0委員会」でいじめの未然防止について児童主体で考えていくとともに、「しない・させない・見逃さない」風土づくりに努める。(ピンクシャツデーの実施)
人材育成・組織運営(働き方)	①教職員一人一人が、自分のキャリアステージに応じた目標と具体的な取組を設定し、役割を自覚して学校運営に参画できるようにする。 ②経験年数や学年、組織を越えて互いに関わり合う雰囲気大切にしていける。 ③学級の問題を学年研や教務会、主幹会で共有し、担任一人が問題を抱えることのないよう支援・連携に努める。 ④行事や校務の精選、効率化を積極的に推進する。ICT機器を活用し、円滑な情報の発信、共有化を図る。
地域学校協働活動	①地域の方々から教えていただく場を設定し、豊かな人との関わりの中で思いやりの心を育てる。 ②花いっぱい活動やボランティア清掃、中山まつり等の地域行事への参加を通して、地域の方々へ感謝の気持ちをもつとともに、自分が地域の一員であることを自覚できるようにする。
児童生徒指導	①児童支援専任を中心に、児童の実態を日常的に共有化し、全職員で対応ができるようにする。 ②児童や保護者の思いを取り入れながら学校のきまりを見直すとともに、全職員が同じ方向性で児童と関わる。 ③子どもたちが主体的に、誰もが安心して、安全な学校をつくっていくこととする取組をしていく。 ④社会的マナーやネット利用に関する出前授業等を実施し、子どもたちの規範意識を高める。
特別支援教育	①児童支援専任、特別支援教育コーディネーターを中心に、登校支援が必要な児童を対象に「ほっとルーム」を運営し、個に寄り添ったきめ細かい支援を行い、学習への意欲付けや自己肯定感の育成ができるように支援する。 ②個別の教育支援計画に基づいて個別の指導計画を作成し、合理的配慮の視点に立った支援を行う。
a15	b10
担当	